

高島市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

周囲との関わりが少なく近い年齢の子どもを持つ他の家庭の様子がわからないため、自身の子どもの接し方や育児全般について「これでいいのだろうか」といった心配や不安を感じている保護者もいる。また、日々の忙しさに追われ、子育てに関する様々な情報を見極めて取り入れることが難しい。祖父母世代や地域の大人の手も必要とされている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

保護者に加え、祖父母世代や地域の大人も、考え方の違いを認め合いながら子どもと関わるができるよう、幅広い年代を対象とした講座や学習会を開催し、今の子どもが置かれている環境や子育て世代への理解を深める。

■本年度の活動

子どもと触れ合うきっかけにするため体験を交えたヨガを取り入れたり、保護者に関心の高いインターネットとの付き合い方をテーマにした講座なども開催した。

■子どもにどうかかわりあうか講座 「親子で学ぶ薬物乱用防止教室」

薬物乱用が心身に及ぼす影響や禁止されている理由を学習し、身近な問題として対処方法や断り方を考えた。また薬の正しい飲み方や、効果のあらわれ方の違いについても親子で学んだ。

■本年度の成果

（１）共育学習会

背中や腕に触れることで、手の暖かさや心地よさをあらためて感じてもらうことができた。また講師の実体験を交えながらのお話「家族にもやってあげたい」などの声が聞かれた。

（２）地域教育力向上講座

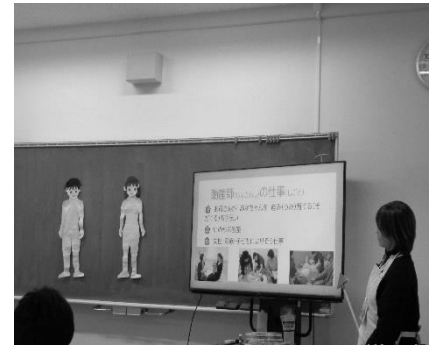
自然の中で生き抜く鳥の子育てを通して、家族や周囲との関わり方、子育ての様子などを学んだ。

（３）子どもにどうかかわりあうか講座

市内各園や学校で選んだテーマをもとに実施した。親子で話を聞いたり、保護者同士の交流を取り入れたところもあるなど様々な形で子育てについて考えてもらう時間となった。

■今後の課題

座学に拘らない開催の形や関心の高いテーマを取り上げるなど参加しやすい環境を整える。



【 子どもにどうかかわりあうか講座 】
親子で命の大切さを考える性教育



【 共育学習会 】
なごん de タッチ！

高島市の家庭教育支援

高島市 本事業開始年度 平成 26 年度		家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容		A：家庭教育支援チーム数	(0) チーム
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施		B：家庭教育支援員数	(0) 人
年間活動日数 (のべ)		C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	(0) か所
(8 日)		D：前項 (C) の配置場所名	(—)

■ 活動の具体的内容

○学習講座・行事の実施等

- ・共育学習会 「心とカラダをほぐす時間」としておはなしとヨガ体験を取り入れて開催。座布団を使った簡単なポーズの紹介と体験を取り入れたお話を実施。
- ・地域教育力向上講座 「子育てのお話」というと身構えがちな保護者や周囲の大人に向けて「鳥の世界の子育て」について専門家から学んだ。
- ・子どもにどうかかわりあうか講座 園や学校でテーマを設けて開催。親子で一諸に話を聞いたり、保護者の交流を取り入れたり、関心の高いテーマについて専門家から学ぶなど家庭教育支援に努めた。



【 参考図書の展示 】

■ 実施に当たっての工夫

○座学だけでなく、体験を取り入れた講座を開催した。

○市立図書館よりテーマにあわせた資料を集め、会場に展示した。合間の時間に手に取る姿も見られ、参加者にも興味を持ってもらえた。また、会場を図書館にすることで、講座終了後に図書館にも立ち寄っていただけるようにした。

■ 事業の成果

○講師が実体験を交えながら、参加者に寄りそ言葉かけをされたため、テーマとしていた「心とカラダをほぐす」ことができる時間になった。

○「子どもと一緒に話を聞いたので、家に帰ってからもう一度親子で話してみたい」といった感想や、近い年齢の子どもを持つ保護者が自分と同じようなことで悩んでいたことを知り「自分だけではない」と気持ちが楽になったなどの声が聞かれた。



【 共育学習会 】

■ 事業実施上の課題

○子育て世代や親子だけでなく、3世代での参加や家族で参加することも意識して内容や広報を考える必要がある。

○子育て関連の部署や団体との協力が不十分であった。情報提供の場としても利用してもらえるよう呼びかけを行いたい。

報告書記入者 (社会教育課 担当)